

令和元年度 兵庫県立上郡高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「愛と誠」を根幹に据え、創立110年を超える歴史の中で築き上げられた良き伝統と地域の支援を継承し、安全・安心で学びたいことを学べる魅力溢れる学校づくりを推進する。そのため、教科学習面の充実、特別活動（部活動、地域貢献、ボランティア活動等）面をさらに活性化させ、質の高い教育をすべての生徒に提供することで、持続可能な社会を創造する「未来を語り まちを支える人づくり」に取り組む。
------	--

3 総合的な自己評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>重点目標1は、やや改善は見られるものの、基礎学力の定着はなかなか難しい。生徒アンケートによると、家庭学習の習慣がなく、本をほとんど読まない者がかなりの割合を占める。自己肯定感が低く、学習意欲も少ない生徒について、対話的な学習活動を取り入れるなど、「わかる授業・魅力ある授業」によって学習意欲を高め、個々の学力向上と授業力向上を図りたい。</li> <li>重点目標2については、SNSによる人間関係のトラブルが増加傾向にある。また、保護者の教育方針や考え方も多様であり、生徒間の人間関係づくりや保護者対応、クラス運営などの場面で難しい対応が増加した。生徒指導部と学年、教育相談担当などの部署間の連携を強化しながらチーム学校として、情報共有と速やかな対応により、個々の案件を未然、事前に防止できる組織的な体制づくりが課題である。また、各種学校行事やホーム・ルーム活動を通じて、生徒の内面理解に努めながら、自己有用感を持たせ規範意識を一層高めていきたい。</li> <li>重点目標3の進路指導の充実については、進路指導部を中心に、各学年・各部と連携し、取り組むことができた。今年度、3学年は、学習合宿などで生徒の意識を高め、A0・推薦入試で、国公立大学へ4名が合格したことは一つの成果である。また、10月後半に実施した2年生全員のインターンシップは、個々の職業観が育んだといえる。これらを進学指導に活かせるように校内の進路指導体制の強化を目指し、再構築を図っていく。</li> <li>学校の特色化については、専門科は学科改編を機にカリキュラムの改編、施設・設備の改修工事などを通じて、スマート農業など、新しい分野の学びに向けて職員意識改革を行っている。高大連携による健康科学類型は、10名以上の生徒が連携先の大学へ進学することとなり、連携校の指導が反映された結果となった。また、専門科の実習や普通科の社会人基礎Ⅲ、生徒会、各部活動など、年間を通じて、各種行事に積極的に参加することによって地域に貢献でき、地域からの信頼が高まった。</li> <li>以上より、学科改編を機に校内の施設の整備を進めながら、学力向上と学校の特色化を進め、生徒一人一人粘り強く指導を行い、教育効果を上げていく。</li> <li>来年度は、上郡町との連携を深め、共通の課題を抱えた地方の町や大学と連携しながら、町の活性化を検討する実践的な学習活動や上郡町の魅力を情報発信する事業を立ち上げ、本校の生徒も事業に参加する中で、ふるさと意識を醸成し、町を活性化するための取組を研究したり、発表するなど、地域を支える人材として生徒が成長していけるよう、さらに有効な教育活動を推進していく。</li> </ul>
---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>教科指導の充実</li> <li>生徒指導の充実</li> <li>進路指導の充実と学校の特色化</li> </ol>
------	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上については、学習内容の理解不十分な生徒に対して、学び直しの機会に制約があること、生徒のモチベーションが低いこと、生徒間で理解不十分な所が異なることなど、指導上難しいこともあると思うが、生徒の学習意欲、保護者と連携した家庭学習の習慣化など多方面からの取組をしてほしい。</li> <li>地域に愛され信頼される学校づくりは、一部生徒のマナーや言動が学校評価に反映される。SNSによる人間関係のトラブルは社会問題化しているが、上手に付き合うことが重要である。生徒指導は多様な事例に対処する必要があり、それぞれの事案に組織対応で対処していただきたい。</li> <li>進路指導の充実と特色化であるが、学校ホームページ上にA0・推薦による国公立大学4名合格が掲載されている。教員・生徒の努力の成果である。またインターンシップは生徒のスキルアップ、キャリア学習に大きな効果を上げている。更なる取組を期待したい。</li> <li>2020年度から専門学科3学科を2科に再編することになっており、新学科での取組を期待している。また、町や地域と一体となった実践的な取組を引き続きお願いしたい。</li> <li>アンケートにおいて、どの分野においても全般的に生徒の自己評価点が低く、自己肯定感の低さが表れている。「わかる授業・魅力ある授業」についての今後の取組を期待する。</li> </ul>
---

2 学校自己評価結果 (A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する D 一層努力を要する)

分野	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策
教科指導の充実	授業態度、家庭学習の習慣等、学習規律の確立	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣化については、週末課題や朝の小テストを工夫し学習の指導を進めた。しかし、生徒アンケートから家庭学習にほとんど取り組まない者が、各学年で半数近い現状について何らかの工夫・改善が求められる。</li> <li>全学年とも進路希望や実態に応じた補習を計画し、年間を通じて実施した。日々の予習をはじめ、定期考査直前しか復習をしない生徒に向けて、教科担当だけでなく、学習実態調査（日程表）の作成など、学年・担任による組織的な指導が必要である。</li> <li>「わかる授業」と学力伸長のために、すべての教科担当者、生徒による授業アンケートを年2回実施した。</li> <li>職員室前の整備を行い、長机・椅子・照明などを備えた学習スペースを設営した結果、教員への質問や個別の学習指導がしやすい環境ができた。</li> <li>教材の工夫や評価方法の見直しによって、生徒が授業に落ち着いて徐々に取り組むようになった。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から興味を高める授業内容・方法や、観点別評価方法など、さらなる改善を図る。</li> <li>3学年の専門科の課題研究発表や普通科の健康科学類型・社会人基礎Ⅲの学習成果発表会を1、2年生に見学させた。次年度以降に取り組む内容を先輩から聞くことで、先の見通しや目標が明確になり、学ぶ意欲の向上に繋がった。</li> <li>習熟度別・少人数指導を実施し、基礎・基本の定着に取り組むことができた。生徒の実態や教科の内容に応じて指導形態での工夫を行うことで一定の効果があった。</li> <li>実践的な指導力を高めるため、春季、秋季の研究授業や公開授業を実施し、教科ごとの研修会で、学校の課題や取組、工夫などについて発表、討議などによる研修を行った。校内においては、上郡中学校と相互に授業見学などを行い、広い視点から授業の見直しを図った。また、カウンセリングマインド研修会、若手教員の研修会等を実施し、資質向上を図った。</li> </ul>
	基礎・基本の定着と進路実現に向けた技能習得	B	
	「わかる授業」と生徒一人ひとりの学力の伸長	B	
	教員の資質向上としての実践的指導力の向上	B	
生徒指導の充実	ルールを守り、自己の言動に責任を持つ生徒の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や身だしなみなどの指導について、日々の登下校時の校門や通学路での指導を実施することで、頭髪・服装・学校生活とも、注意をされる生徒の数が少なくなっており、3年間を通じた指導の中で一定の成果を得た。しかし、一部の生徒については、指導の継続が必要であるため、今後も粘り強く続ける。</li> <li>登下校時のマナーについて、地域住民からの苦情が数件寄せられたため、通学列車指導や地域への巡回指導を実施した。また、年度途中より、上郡駅からの登校経路を一部変更し、地域からの苦情も無くなった。</li> <li>部活動の活性化のため、1学年の1学期を部活動全員加入としている。途中でやめる生徒も多いため、未加入の生徒に声かけを行い加入を勧めていく。</li> <li>生徒会は、校内外問わず数多くの行事に参加し、自主的・自立的に取り組んでいる。このことより地域から評価されている。2学期には、新たに上郡中学校の生徒会役員と合同挨拶運動に取り組んだ。</li> <li>今年度起こった人間関係のトラブルやいじめ事案について、いじめ対応チームの会議において情報を共有し、組織的に対応する場を設けた。</li> <li>年3回のいじめアンケートを実施し、早期にいじめが発見できるように取り組んでいる。</li> <li>12月に県立教育研修所の指導主事を講師とした「いじめ未然防止プログラム」の職員研修を実施した。</li> <li>様々な特性を持つ生徒に適切に対応するため、カウンセリングマインド研修会を年2回、専門分野の講師により実施した。これにより、生徒の持つ特性や、指導方法についての知識を得た。また、保護者の了解の下、個別の指導・支援計画を作成し、全職員に周知して統一した合理的配慮を行った。</li> <li>キャンパスカウンセラーによる教育相談を有効に活用し、生徒への的確な助言や対応の一助となるなど効果があった。</li> </ul>
	部活動の運営と自己肯定感を持つ思いやりのある生徒の育成	B	
	生徒に対する毅然とした態度と、生徒、保護者、地域からの信頼	B	
	いじめの未然防止、いじめ事案への対応	B	
進路指導の充実と学校の特色化	生徒の内面理解を図る相談活動、支援の展開	B	
	習熟度別学級編成、進路別類型設定による進路に対応した学習指導	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試の結果分析を行い、きめ細かな教科指導に反映させている。今年度の3学年の進路指導のプロセスを次の学年に引き継ぎ、進路実績を向上させていく。</li> <li>新テスト対策として、1・2年生を中心にe-ポートフォリオの作成に向けて振り返りをまとめている。</li> <li>2年生の社基Ⅱで2学期に全生徒によるインターンシップ実施は、生徒のキャリア学習の効果をあげている。来年度以降、生徒の希望を尊重しながら実習先の選定・調整をより丁寧に進めていく。</li> <li>生徒の進路意識向上に向けて、ガイダンスの内容や来校する学校の種類などを工夫・改善する必要がある。</li> <li>類型の進学先の大半は看護・教育・福祉の3分野となった。</li> <li>就農講座や農場見学等、専門家からの講義を受講させた。プロの知識・技能について、生徒の興味・関心・意欲を高めるなど教育効果があった。しかし、高校卒業、即就農にはつながっていきにくい現状がある。今後も粘り強く指導していく。</li> <li>専門科の課題研究は、個人による単年度の研究となっており、過去からの積み重ねが無く、探究活動として限界があり、研究を深め成果を得るために、グループで1つのテーマを継続して研究する方向に切り替えていく必要がある。</li> <li>検定、資格については、ワープロ検定、トレース検定など多数の資格が取得できた。</li> <li>農業クラブにおいて、夏の県連盟大会において、本校が測量部門で最優秀となり、全国大会へ出場した。また、今年度は、農業クラブの県事務局として、夏の県連盟大会、新しい農業をめざす高校生をつどいなど、顧問会・理事会などの運営に関わり、活躍した。令和3年度の農業クラブ全国大会（兵庫大会）に向けて、運営能力の向上に努めていく。また、今後は課題研究の進め方や体制を見直し、プロジェクト学習等における研究成果が発揮されるよう技能向上に努める。</li> </ul>
	キャリア教育としての職業観、勤労観の育成と進路意識の向上	B	
	農業のスペシャリストとしての技能習得	B	
その他	「健康科学類型」の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康科学類型については、1学年では、各学期末に各分野の導入として大学教員の講義を受講し、興味・関心を高めた。2学年では、「健康科学基礎」の授業で関西福祉大学の先生の指導を受けることで、各分野への進路意識を高めた。2学期の関西福祉大でのインターンシップでは、上級学校での学びを体験し、進路選択に大いに役立った。</li> <li>3年生において、「健康科学探究」の授業では、各自課題を設定し、探究（研究）の論文として仕上げた。作成したものは、記録集として冊子にした。今後は、夏休みの体験実習（5日間1単位）について、実習先の負担を配慮しつつ実施していく。健康科学類型について、高大連携の趣旨を再確認しながら来年度の計画を立てていく。</li> <li>社会人基礎（2,3年生：総合的な学習の時間、1年生：総合的な探究の時間）は取組開始より9年目を迎えており、生徒の主体性を育む効果的なプログラムである。今年度より、学年が主体となり運営している。総括を行い、町と連携した町の魅力発展事業も含めたカリキュラムを再構築する。</li> </ul>
	自立する人として、共生の能力を兼ね備えた「社会人基礎力」を培う	B	
	危険管理	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民局主催の防災訓練は12月上旬に実施し、評価が向上した。今年度は、地元の上郡、赤穂、太子の防災士の会が主体となり、炊き出し訓練、応急手当、消火訓練、土嚢作りなど実践的な訓練を行い、生徒・職員危機管理の意識が高まった。</li> <li>新型コロナウイルス発生時に、早期に臨時的校務運営委員会をもち、対応を協議、消毒用アルコールやマスクをいち早く準備するなど、迅速な対応をとることができた。</li> </ul>
	環境整備	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が気持ちよく過ごせる環境を意識して、教員・生徒だけではなく、管理職や主幹教諭も積極的に廊下掃除などを行い、校内美化に努めた。</li> <li>学年毎にクリーン作戦を実施し、学校周辺の美化活動にも積極的に取り組んだ。</li> </ul>
保護者・地域との連携	家庭や地域への広報の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校通信「上高だより」「農場だより」や学年通信など定期的な発行により、学校の情報を地域や保護者に発信した。特に、JR上郡駅の駅舎入口に、大判の上高だよりと農場だよりを掲示するパネルを設置し、地域の方に上郡高校を広く知ってもらう機会を創出した。</li> <li>ホームページ更新回数は、昨年度よりやや少なくなったが、行事の様子をこまめに掲載するように努めた。</li> <li>昨年度同様、多くの地域住民に文化祭・体育大会など学校行事を見に来ていただいた。PTA役員が文化祭模擬店、マラソン大会の炊き出しに参加した。</li> <li>上郡町商工まつり・白旗城まつりなど地域の各イベント等に参加して、地域の方に、本校についての理解を深めてもらった。</li> <li>オープン・スクール期間に授業を公開したり、専門学科の生徒が毎週火曜日に栽培した野菜を販売する「火曜日」などで開かれた学校づくりに取り組んだ。</li> </ul>
	学校評議員や保護者を活用した学校運営の推進	B	
	地域や関係機関と連携した開かれた学校づくり	B	
労働環境	勤務の適正化と意識	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>月曜に実施している早く帰りマナー（19:00退勤）と火曜のノー会議デー・ノー研修会デーはほぼ浸透している。決裁の簡略化や、職員個人に文書配布するための「レターケース」導入など、業務改善推進委員会による効率化を進めている。</li> <li>部活動顧問の一部と農業関係で実習の伴う職員、業務が集中している職員、教頭の勤務の適性化などが課題である。</li> <li>管理職から、機会ある毎に年休・休暇等によるリフレッシュを呼びかけている。</li> </ul>

5 評価項目ごとの学校関係者評価

評価項目	学校関係者評価
自己評価	<p>学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価にも書かれ、生徒のアンケートからも見られる「家庭学習」「読書」「自己肯定感」の向上が望まれる。具体には職員室前に新設した学習スペースを「家庭学習」にどのようにつなげていくのか、どのように学習習慣のスパイラルを描けるのか等、次年度への期待がもたれる。</li> <li>家庭学習時間の充実についての評価の低さが顕著であるが、家庭学習時間とSNS、ネットゲーム等のスマホ使用時間には相関関係があると予想される。スマホの使用状況に関する調査とそれにどう対応するかが今後の課題になる。</li> <li>生徒は授業意欲、家庭学習意欲ともに評価が低下、保護者は逆に評価が高くなっている。家庭学習の習慣化の目的を明確にして、達成感を得ることが大事、計画的かつ効果的な家庭学習で将来を見据えた自己研鑽に努めて欲しい。</li> <li>家庭学習、読書冊数ともに全学年を通じて評価が低い。日頃の習慣化が必要。</li> <li>資格の取得にチャレンジすることは学力向上等に繋がる。</li> <li>生徒アンケートでは、教科指導の全項目で数値が低下、早い段階から自らの将来像を描き、長期的な視点に立った学習に取り組むことが必要。</li> <li>6月と10月に参観させていただいた先生方の授業は勢いがあり、教材内容や指導の工夫が随所にうかがえた。「授業」と「家庭学習」「読書」がうまくコラボし、生徒の学力向上につながる努力が望まれる。</li> </ul>
部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は生徒間の交流、または適応力の向上にも繋がると思われるので、文武両道を目指して取り組んでいただきたい。</li> <li>生徒アンケートでは、いじめへの対応で3割強が評価2または1になっている。いじめアンケートやいじめ対応チームが効果的に機能しているかの考察・改善が急務と思われる。</li> <li>いじめの抑止に向けて小さい事例でも見逃さず、早い段階で解決して欲しい。</li> <li>生徒指導にあたっては、全職員が共通意識のもとに対人関係保持や集団行動の規範に取り組んでもらいたい。</li> <li>生徒指導のさまざまな取組により、学校は落ち着いており、成果がみられる。</li> <li>修学旅行など学校を離れた場所での学校行事においても、各担当者は生徒の状況や人数などの把握を確実にし、適切な指導していただきたい。</li> <li>挨拶については、地元の小・中・高の中で高校生が最もよくしてくれるので、段階的に教育が行われていると感じる。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した進路指導に関して、生徒・保護者ともに評価が高い。学年間の連携・引き継ぎがしっかりと行われていると思われる。</li> <li>それぞれの学科ごとの指導が充実し、3年間での資格の獲得や今年度農業クラブ全国大会参加等、キャリア教育の充実がみられる。</li> <li>インターンシップによる職場体験や大学での体験学習は、生徒の進路実現に大きく寄与すると思われる。今後も進路に合わせた取組を期待する。</li> <li>就農の機会を、社会経済の動向、生徒の向学心、動植物への愛情などに頼る部分が多い。将来の農業に明るい展望が見いだされなければ、学習意欲も高まらないのではないかと、技能の習得は勿論、現地見学などにより、就農に対する理解を深めることが重要である。</li> <li>検定、資格取得は本人のモチベーションやスキルアップにつながる。農業クラブの競技の成績は学校のPR、本人の技術習得などに大きな影響を及ぼすので、継続した指導をお願いしたい。</li> </ul>
大学教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学教員の講義を受講するなど、学校の枠を越えた取組が生徒の意欲向上につながっていると見受けられる。高大連携の取組は貴校の魅力ある特色といえる。</li> <li>高大連携事業を意識した学習内容の充実と進路指導に取り組み、成果を上げていると評価できる。</li> <li>社会人基礎が9年目を迎えているとのことだが、生徒の主体性のもと、町と連携した取組を期待する。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地で自然災害が多発している。高齢化社会の中で高校生が果たす役割も多様化している。日常の訓練で防災意識を高めながら、ボランティア活動を期待する。</li> <li>有事の際の行動規範を身につけ、自らが率先して行動できる人材を育成して欲しい。</li> </ul>
管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の評価も高く、各学年ごとに年1回の清掃活動をもう少し増やしてもらいたい。</li> <li>管理職も含めた教職員の美化活動の取組に敬服します。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者のアンケートの「子どもは学校へ行くのが楽しく、充実した生活が送れた。」78.1%、「本校の雰囲気はいい」75.8%、「子どもを入学させてよかった」80.5%は学校への信頼が表れていると思われる。</li> <li>生徒の学校満足度67.4%、保護者の学校満足度70.56%、教員の学校満足度72.15%、全体では、70.56%であった。</li> <li>町の商工まつり、白旗城まつり等での活躍や町の広報誌・議会だよりで生徒の活躍を目にすることが多い。一昨年度から町の文化祭で茶道部生徒が活躍している。また、町内各小学校の放課後子ども教室に本校生がボランティアとして関わり、児童や地域ボランティアと交流を深めている。</li> <li>教員の長時間労働は集中力低下や仕事の効率が悪くなり、生徒に悪影響を及ぼすことが危惧される。</li> <li>教員の心身の健康と生徒と真剣に向き合う時間を大切にしたい。</li> </ul>